

IWATE × MERIT

岩手県立病院 専門研修のメリット

【 県立病院のネットワーク 】

20病院・6地域診療センターからなる岩手県立病院のネットワークにより、充実した専門研修を行うことができます。

【 一人ひとりのキャリアプランに沿ったプログラム 】

岩手県立病院によるネットワークを活かすことで、一人ひとりのキャリアプランに沿ったプログラム構成が可能となり、症例豊富な病院での研修や特色のある地域医療などを経験できます。

【 安心して研修に専念できるサポート体制 】

岩手県立病院の専門研修プログラムは、岩手県職員として採用されるため、しっかりとした身分保障と県が実施する様々な支援・サポートを受けられます。これにより、基幹施設や様々な連携施設で勤務する際、安心して研修や医療に専念することができます。



医療局医師支援推進室

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸11-1

TEL: 019-629-6366 / FAX: 019-629-6354

HOSPITAL MAP

エリアで見る“岩手県”

SUPPORT

キャリア支援で見る“岩手県”

DOCTORS TALK SESSION

医療現場から見る“岩手県”

HOSPITAL DATA

施設情報で見る“岩手県”

FIELD

診療科領域で見る“岩手県”

岩手県立病院 専門研修 ネットワーク

7 + 13

基幹施設

連携施設

MY FIELD in IWATE

岩手県立病院
専門研修プログラム
ガイドブック

岩手県立病院 専門研修ネットワーク

7

基幹施設

+

13

連携施設

広大な県土をカバーする県立病院のネットワークを有する岩手県医師のキャリア形成支援や勤務環境改善のための取り組み、女性医師の就労継続に向けたサポートなど、あなたが十分にキャリアを発揮できる環境を用意しています。この岩手のフィールドが、あなたの活躍の場を広げます。

IWATE × HOSPITAL MAP

岩手県立病院群マップ

エリアで見る“岩手県”

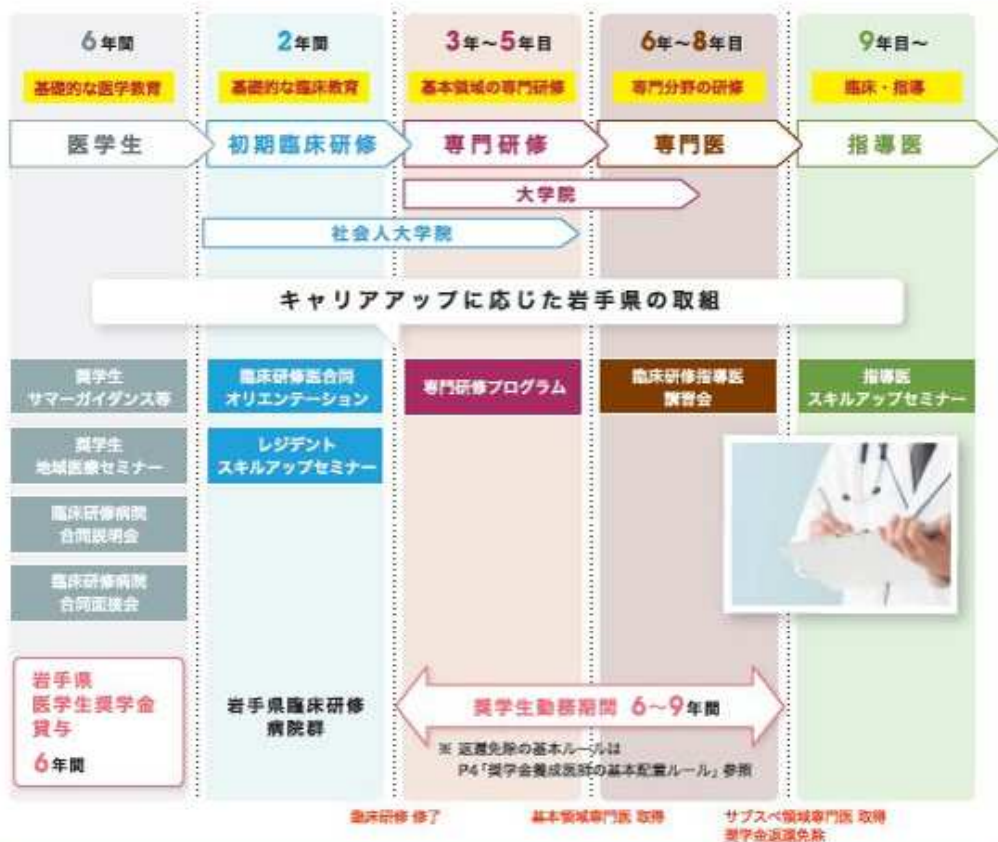
岩手県立病院は、

20病院6地域診療センターからなり、許可病床数は5,013床（平成29年度末）であり、県立病院としては、全国でも多い病床数及び病床数です。



初 臨床研修病院 初基 基幹施設

キャリア支援で見る“岩手県”



岩手県臨床研修病院群 (いわてイーハートゥーズ臨床研修病院群)

県内13の臨床研修病院が「いわてイーハートゥーズ臨床研修病院群」としてスクラムを組み、各病院の指導医が緊密に連携しあい、県と共同して臨床研修体制の充実、環境整備に向けた一体的な取り組みを行っています。

また、すべての研修病院が協力病院として連携し、各臨床研修病院の研修プログラムについて相互補充できるようにする、たすきがけ研修により、研修医を相互受け入れ相互の強みを活かす研修体制をつくるよう取り組んでいます。

“いわてイーハートゥーズ臨床研修病院群”

- 岩手医科大学附属病院
- 盛岡市立病院
- 岩手県立胆沢病院
- 岩手県立釜石病院
- 岩手県立二戸病院
- 盛岡赤十字病院
- 北上済生会病院
- 岩手県立磐井病院
- 岩手県立宮古病院
- 岩手県立中央病院
- 岩手県立中部病院
- 岩手県立大船渡病院
- 岩手県立久慈病院

“岩手県立病院のキャリア支援「特徴」と「魅力」”



幅広い領域を網羅したプログラム

高度で細分化された専門志向は人口の多い大都市では成り立ちますが、日本の多くの医師不足地域では〇〇科以外は診ないという訳にはいきません。岩手県立病院の専門研修プログラムは、幅広い領域を網羅していますので、県立病院の中で専攻医一人ひとりのニーズにあった専門研修を十分することができるほか、県立病院は、基幹病院や地域病院まで幅広い経歴ができることから、一人ひとりが目指す医師像や専門医像の実現が可能となります。

初期臨床研修から専門研修へ連続したキャリア形成

いわてイーハートゥーズ臨床研修病院群では、1年次研修医全員を対象とした臨床研修医合同オリエンテーションや2年次研修医全員を対象としたレジデントスキルアップセミナーを開催するほか、指導医講習会を開催するなど、臨床研修医への丁寧な指導や指導のレベルアップへの取り組みを連携して行っています。

また、初期研修の早い段階から教員として活躍してもらいますので、親身な初期研修から引き続き、手技や症例を豊富に経験できる岩手県立病院は専門研修においても最適な環境と言えます。

医師へのサポート体制

学会出席のために研修助成を行っており、旅費年額18万円・受講料年額3万円・文献検索複写費用1万円の範囲内で自由に使用することができます。さらに認定医・専門医の取得の別や所属する県立病院の地域に応じ研修助成費の加算があります。

女性医師支援 (JOYサポートプロジェクト)

岩手県立病院に勤務する女性医師のワークライフバランスとキャリアパスの実現をサポートするため、出産、育児や介護に関する様々な支援制度を設けて仕事と家庭の両立を支援しています。また、院内保育所で24時間保育、病児保育及び学童保育を実施や働きやすい職場環境の整備に取り組んでいます。

医師のキャリア形成への支援

県内の二次保健医療圏内で二次救急、高度・専門医療等地域住民の生命に関わる医療を担う基幹病院と初期救急やプライマリ・ケアなど地域住民に身近な医療を提供する地域病院など、幅広い領域を網羅している岩手県立病院の中で、一人ひとりのキャリアアップに向けた専門研修を行うことができます。

専攻医の勤務ローテーションや専門研修について配置先医療機関や大学等関連機関が一体となり支援を行います。

また、県立病院職員として身分が保障された中で、安心して医師としてのキャリア形成に専念することができます。

給与・手当・賞与

医師免許取得後3年目

950万円 ~ 1,150万円

医師免許取得後5年目

1,020万円 ~ 1,280万円

注1「手当」の内訳 — 初任給調整手当、医師手当及び地域手当（※超過勤務手当は含まれていません。）

注2 次の表額に勤務する医師については、さらに医師手当に年額36万円が加算されます。

大船渡、釜石、宮古、高田、久慈、大船、山田及び住田診療センター

注3 その他、支給要件を満たした場合は、職員の状況に応じて以下の手当が支給されます。（月額）

扶養手当 — 配偶者10,000円/人、高22歳の年度末までの親にありする者8,000円/人、専任者手当 — 上限27,000円

通勤手当 — 標準額75,000円

専任者手当 — 30,000円+距離に応じた加算額

地域手当 — 7,360円～17,800円の範囲内の額（毎年11月～3月の5か月間支給）

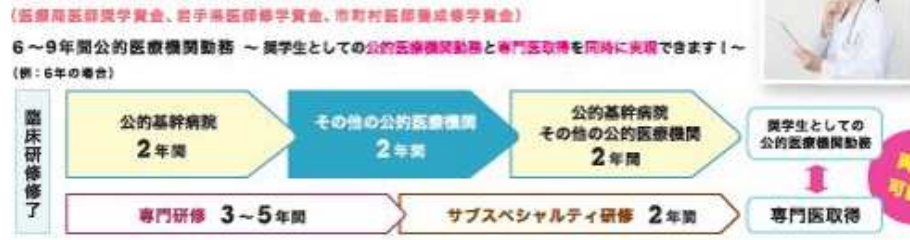
※大船渡、釜石、宮古、高田、山田診療センター

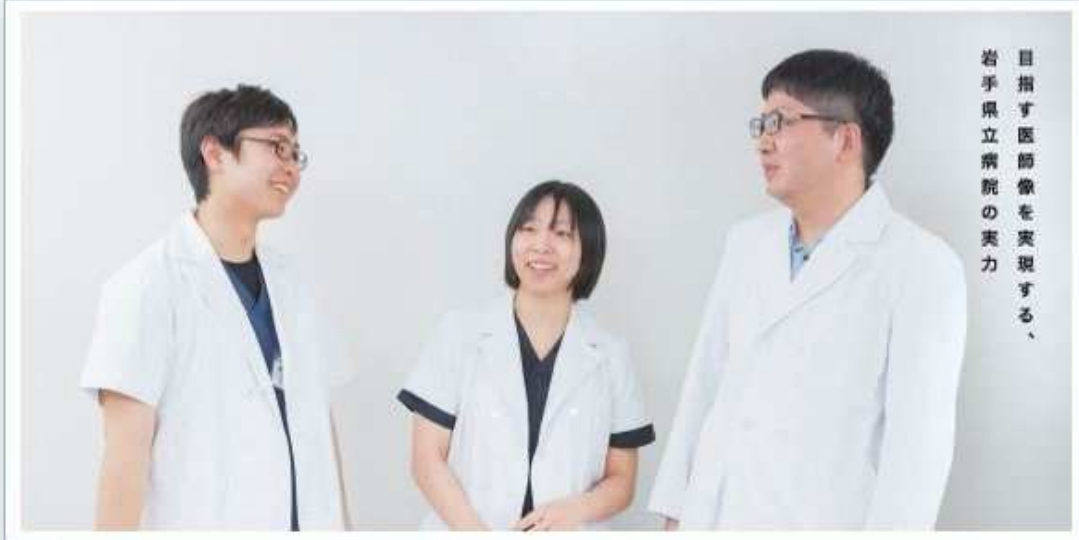
特務勤務手当 — 勤務した実績に応じて支給

例：救急医療加算（外来救急患者診療のための緊急呼び出し）3,700円/回

管理手当 — 20,000円/回（但し5時間未満は10,000円）

奨学金養成医師の基本配置ルール





目指す医師像を実現する、
岩手県立病院の実力

IWATE X DOCTORS TALK SESSION

「医療現場から見る“岩手県”」

岩手県立病院で初期研修を行い、同じく岩手県立病院にて専門研修に臨む3名の医師が集い、岩手県の医療の特徴と、医師として研鑽を積む魅力について語り合ってもらいました。

須藤 私が岩手県立岩手病院を初期研修先に選んだのは、既に研修医として働いていた先輩から見学に誘われたことがきっかけでした。研修医1年目の早い段階から内視鏡検査をしている先輩の姿を目にし、ここでも間違いなく医師としての実力をしっかり身に付けることができると感じたからです。

東本 私は、生まれ育った岩手県に貢献したいという気持ちが強く、医学生になったときから岩手県の病院

で研修をしようと考えていました。将来は乳腺外科を希望しているため、乳腺・内分泌外科のある岩手県立中央病院を研修先を選びました。

村上 私も東本先生と同じく、地元である岩手県に貢献したいと思い、岩手県立病院で研修をしようとして早くから決めていました。麻酔科医を目指していることもあり、基幹病院として麻酔科医の研鑽を積むことができる岩手県立中央病院を研修先を選びました。病院の雰囲気良かったという理由も大きいですね。

東本 ちなみに、須藤先生は東京都出身ですが岩手県の印象はどうですか？

須藤 東京のような都市部では、患者さんが研修医に診察されることへの不満やクレームもいると聞いたことがあります。岩手県ではそうした患者さんを見たことはあまりありませんし、患者さんはとても研修医

に協力的で、医師を大切にしてくれている印象があります。

村上 岩手県の人はシャイですが優しい方が多く、地域のあたたかさを感じますよね。とても仕事のしやすい環境だと思います。

東本 実際に医師という仕事に就いて実感したのは、患者さんやその家族、医療スタッフと相談しながら診療を進めていくことが多く、日頃のコミュニケーションや人との関わり方が重要だということです。患者さんやスタッフなど、岩手県の人々の優しさやあたたかさは、診療のしやすさにもつながっていると思います。

須藤 それと、出身地や出身大学が異なっても、岩手県でアウェー感を受けたことは全くありません。同期を例に挙げると関東出身者が3人、関西出身者もいて、岩手出身者は1人です。里沢病院は内視鏡による検

査や治療に実績があり、消化器内科を目指す私にとって素晴らしいスキルアップができると考えています。消化器内科をローテートしているとき以外にも、有意義で楽しい研修期間を過ごすことができました。

村上 スキルアップで言うと、研修医の多い都市部の病院では、あまり患者さんをタッチできないと聞いています。数の論理で言えば、岩手県の研修医は断然、手技や症例を多く経験することができますよね。

須藤 当直や紹介患者さんは基本的に研修医がファーストタッチをしますし、研修1年目の6月という、まだ仕事慣れしていない段階で入院中の患者さんやそのご家族に対して病状説明をする機会を与えていただくなど、早い段階から様々な経験ができることも大きな特徴だと思います。

東本 確かにそうですね。高校時代、地元の病院を見学したときに、若い研修医の先生が救急対応をしている姿を見てびっくりしたことを思い出しました。若くして活躍する姿に

触発されたことも、私が医師を目指すきっかけの一つになりました。

村上 早い段階から経験することによって不安はありました。中央病院での当直は、初期研修医1～2年次、そして3年目以降の先生が2人と循環器や脳神経外科の先生というバックアップの整った体制で行っているため、安心してファーストタッチすることができました。充実した指導を得ることもできます。

須藤 それと研修の自由度が高く、医療に主体的に取り組めることも特徴だと思います。自分が将来志望する科が何科なのか、少なくとも内科系か外科系なのかを初期研修の早い段階で決めることで、非常に有意義な研修をすることができますよね。

村上 初期研修では自分の将来の希望も加味しながら自由に診療科を選ぶ期間が11カ月間あり、「たすきがけ」も早めに申請すれば希望通りの研修が可能です。専門研修においても一人ひとりのキャリアプランに沿った研修が組めるのも大きな魅力ですね。

東本 初期研修が修了し、2018年4月には新たな専門制度が始まります。正直、新専門医制度についてはまだ漠然としている部分も多いですが、岩手県の豊富な症例を経験できる医療環境の中、積極的に医療に臨んでいくことが大事だと思っています。

須藤 専門医資格の取得には、豊富な症例を経験することがとても重要です。研修医から戦力として扱われ、手技や症例を豊富に経験できる岩手県立病院は、専門研修においても最適な環境だと思います。

村上 それに、岩手県立病院には高



い専門性と豊富な経験を持った多くのスペシャリストにコンサルトできる環境が身近にあります。豊富な経験ができることに加え、スペシャリストの考えや教えをすぐに得られることも、スキルアップにすごく良い環境です。

東本 そうですね。また、岩手県は医師数が不足している分、医療機関同士が密接な連携を行っていることも大きな特徴で、岩手県立病院の密な連携は専門研修においても非常に魅力的だと思います。岩手県立病院は、全人的な医療から専門性の高い高度な医療まで幅広い領域を網羅しているため、一人ひとりの目指す医師像や専門医を実現するための最適な研鑽を積むことができます。

村上 幅広い領域を網羅しているの、岩手県立病院の中だけで一人ひとりのニーズにあった専門研修を十分することができます。県立病院の中ですら所属や身分保障が変わることがないので、医療にしっかり専念することができるのも魅力です。

須藤 岩手県立病院には、一人ひとりが目指す医師像へと大きく成長できる素晴らしい医療環境があります。どこで専門研修をしようか迷っている方は、岩手県立病院での研修をぜひ考えてほしいです。みなさんとともに若い力で岩手県の医療を盛り上げていきたいですね。



里沢

岩手県立岩手病院
須藤 流一郎

Kashiro Ryoichiro

東京都出身
東北大学卒業 (H28年度)
志望専門領域：消化器内科

盛岡

岩手県立中央病院
東本 郁

Ito Mutsuhiko

岩手県出身
秋田大学卒業 (H28年度)
志望専門領域：乳腺外科

盛岡

岩手県立中央病院
村上 輔

Murakami Tetsu

岩手県出身
秋田大学卒業 (H26年度)
志望専門領域：麻酔科